はじめに

「多様性を認め合い、誰もが自分らしく生きることができるまち」を目指し、第４次となる吉川市の「パートナーシップアクション」が令和４年からいよいよスタートします。

平成28年、社会情勢の変化を踏まえ、新たな視点を持って吉川市の「男女共同参画」の体系や事業の見直しを行いました。

そうした中、28年には、女性起業支援NPOとの共催での「女性企業家フェスタ」開催。29年には、「女性の視点」「多様な視点」を持った「避難所運営」の推進。30年には、「女性しごと応援フェア」「女性と多様な働き方シンポジウム」の開催。令和元年には、男女共同参画を国際的な視野で考えようと「男女活躍・国際交流ワールドカフェ」を開催。コロナ禍においても令和2年には、「多様な性のあり方」についての講演や様々な立場のパネラー参加による討論会をオンラインで開催。

さらに、そうした活動や社会状況を、多くの方々にお伝えしたいと、啓発紙もリニューアルしました。

このように、これまで以上に様々な立場、様々な視点を持って取り組んできた吉川市の「男女共同参画」。そこで見えてきた大切な考え方は、性別の枠を超えた「多様性」という言葉に集約されます。

世界はまさに今、「多様性ある共同参画」のステージにあり、SDGsにおいて謳われている「誰一人取り残さない」というテーマもここに通じます。

日本の、埼玉県の、その中でも小さな街である吉川市ですが、「多様性を認め合い、誰もが自分らしく生きることができるまち」を理念とする、この「よしかわパートナーシップアクション」の実行により、世界に向けて「価値ある未来」を示せる街となれるよう、皆さまと共に活動を進めてゆきたいと思います。

結びに、計画策定にあたり、計画案をご審議いただきました審議会委員の皆さまをはじめ、市民意識調査等にご協力をいただき、また、貴重なご意見をお寄せいただきました市民の皆さまに心からお礼を申し上げます。

令和４年３月

吉川市長　中原良人